

世界平和を脅かす危機感から「看護未来塾」は誓う

～いのち・暮らしに寄り添い、人間の尊厳を護るために～

看護未来塾は 2016 年、平和な暮らしや生命の安全を脅かすような社会の流れに対して強い危機感を持って集まりました。その一番目の危機感が、「過去の戦争体験が風化しつつある中、平和のよりどころとなる憲法を変え、表現・言論の自由を制限し、軍事偏重の政策、軍事/防衛研究の拡大に向かうのではないか」というものでした。そして、設立にあたって、「世界のあらゆる国や地域に暮らす人々のいのちと暮らしの安全を守り、国のあり方の根幹を問い、どのような状況でも一人ひとりが自由と可能性を実現できる、生き甲斐のある平和な社会の構築を目指し、アクティブに活動する組織」と宣言いたしました。

あれから 10 年を経過した今、私たちは設立時の危機感がさらに強まったと考えます。世界のあちこちで侵攻や戦争が続き、人々のいのちや暮らしが大きな脅威にさらされ、人間としての尊厳が踏みにじられる悲惨な事態が増え続けています。

平和の維持に尽力してきた世界のルールが巨大諸国の自国ファーストの論理で、容易に崩れていることに懸念し憂慮する人々が多いと思います。平和憲法を有する我が国でも、このような世界情勢を背景として、防衛力の強化や武器輸出の拡大、国家情報局の発足とスパイ防止法案の検討など、これまでとは異なる次元の施策が次々と実行されようとしています。

戦争が起これば短期間に止めることが難しいことは 4 年前のロシアのウクライナへの侵攻、イスラエルのガザへの戦争はもとより、今年 2 月 26 日に始まったイスラエルと米国によるイランへの爆撃・中東の危機によってもわかります。

私たち看護に携わる者は、戦争被災地の人々のいのちと暮らし、尊厳の喪失など悲惨な状況に想いを馳せることはもとより、救助支援を行う看護師をはじめとするヘルス専門家たちの苦難にも心が痛みます。看護職は紛争・戦時下で支援活動を行ってきた、また今も行っている経験から、戦争はあってはならないものであり、平和こそが人々のいのちと暮らしと尊厳を護るものであると強く信じています。

最近の世界と日本の平和を脅かす状況を見るにつけ、「看護未来塾」として改めて、どのような取り組みができるかをアクティブに考え、自らの課題として取り組んでいきたいと考えています。平和は理念だけではなく、また、政治家や行政・有識者に任せておくだけではなく、私たちが取り組めることがあると考えるからです。看護職は、他者の痛みに関心し、一人ひとりの人生の重みを理解し、寄り添い、共に在ることを重視してきました。日常のなかで平和の重要性を語り、戦争や社会を語ることを「政治的」と捉えるのではなく「通常の対話」と考え、意見の違いを受けいれる度量をもち、声を揃えるよりも「声を奪わない」ことを大切にしていきたいと考えます。

「看護未来塾」では、今までも勉強会で戦争と平和と看護についてお互いの経験の共有や意見交換を行ってきましたが、これからも活動を継続しながら、社会に向けて看護界の声を届け続けていくことを誓います。

2026年8月 看護未来塾